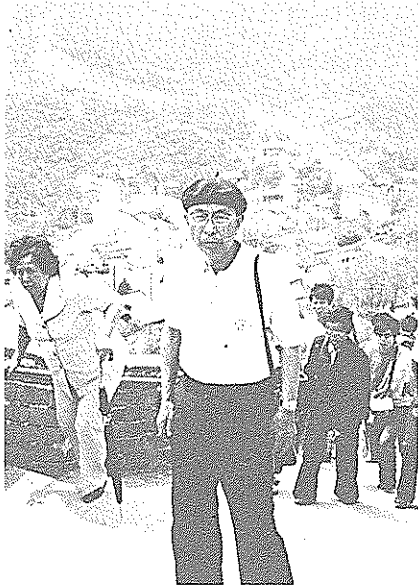


に中国訪問希望の民衆

参加して

島崎 洸一（岩村）



万里の長城に立つ、島崎洸一さん

隣国中華人民共和国は、古くから我が国との関係が深く、文化、芸術、宗教など中国より伝わり、また広大な土地を持ち幾千年の歴史の重みを肌で感じた。

隣国中華人民共和国は、古くから我が国との関係が深く、文化、芸術、宗教など中国より伝わり、また広大な土地を持ち幾千年の歴史の重みを肌で感じた。

上の唯一の建造物という。
「初夏の八達嶺に龍の雲」



北京の平安門（紫金城）前広場は、四十万平方メートル、百万人を入れる広さを持ち、毛首席記念堂人民英雄記念碑など立ち並び、日本人の感覚では度肝を抜かれる思い。近くの故宮は明代の皇帝の住まいで、二千余点の芸術品の宝庫。金代王朝が離宮を営んだ頤和園は、昆明湖という二十万平方メートルもある人造湖を掘り、その土で万寿山を造って、多くの寺院を建立し今に残している。

山水画さながらに山また山が迫る八達嶺で、万里の長城の一点に足跡を印することを得た。延々六千メートルの長城は、紀元前五百年のころより、北方匈奴の侵入を防ぐため構築され、秦始皇帝が三十万の兵と、数百万の農民を強制労働させて原型を造り、歴代王朝が補修したもので、月より見える地球

北京労働組合で、退職者との懇話会。退職者は年金や子の仕送りで、生活は安定し、医療は無料です。生け花、読書、テレビなど隠居の暮らし。中国人は昔から高僧を生み、宗教心に富み、多くの寺院を残しているも、解放後はお祈りしなくとも何の不安もなく、拝まなくとも幸せであり、老人を尊敬し、衣食住は足り、人間は命を保ち、乳を吸う人間本能が満たされればよいと、信仰しなくなったという。この後西安、上海でも、年金生活者、人民公社の農民との対話でも同様の発言があった。

西安と我が国の関係は深く、七世紀のころより遣唐使、学者、僧侶の往来多く、有名な阿部仲麻呂や空海の学んだ所で、三千年の歴史の重要な遺跡の宝庫で、また中国側シルクロードの起点でもある。

「初燕シルクロードの彼方より」

二年前、四国四県の協力建立した、空海記念塔に献花、植樹した。空海生誕千五十年に当たり日本人の参拝多く、高野山が復元工事

を怠っている青龍寺は、六月完工し、九月十五日落慶法要の由。付近一面の麦畑で、農民が座って根元から抜いている。「コンバインを贈ったら何ばか喜ぶろうのう」との声あり。

「仲麻呂の望郷の里麦の秋」

西安動物園にパンダを訪ね、西安第四紡績工場見学。陝西省副知事、西安市長らを招待し、日中友好レセプションを開催。和気あいあいの交歓に、訪中団中国側共々、歌、踊りなどの交流、特に中国側の日本語の歌はすばらしかった。西安では、旧長安城四門のうちただ一つ残り、上れる西城址の遺跡・鐘樓、三蔵法師ゆかりの大雁塔・定陵、玄宗と楊貴妃の世紀のロマンスで有名な華清池など、多くの古跡等を見学。テレビ放映でご案内の秦始皇帝兵馬俑は、八千の陶製俑が皇帝の御りに埋められ、一部は外の展示館に公開され、万里の長城とともに、その規模にたゞ驚く大遺跡である。

また陝西省博物館は、三万点の美術品、出土品を蔵し、碑林は王羲之、顔真卿など中国を代表する書家の名筆の碑が並び、文字通り碑の林。

「彫深くふれて冷たき碑の林」

上海新華路幼稚園で、花笠踊り

をもって迎えられ、矢継ぎ早に日本舞踏を披露されたのには恐縮。記念品を贈り辞去。

新華路の一般的な家庭を訪問、炊・廁・浴付きの三DKで、家賃十六元、電気代その他で十五元と

のことで、結構ゆとりある生活振りで見られた。

訪中団員の中には、思い出のある人もいる。上海居留民街やガーデンブリッジ、さらには虹口公園にある、中国の偉大な文学者・思想家魯迅の碑に献花し、上海より全日空機で日章飛行場に無事帰還。

「沙羅双樹白く匂えり魯迅の碑」

今回の訪中団は県の行事として、老人、婦人、青年で構成し、民間交流の目的をもち公社、農家、幼稚園、工場、史跡などを訪れた。「熱烈歓迎高知県民希望の翼訪華団」の横幕、あるいは日本舞踏で迎えられ、また西安戯曲研究院での舞踏の特別交流会、上海雑技場のサーカスなど、舞踏の国中国の至芸なども見学でき、実りある訪中の歩みであった。

現代中国の概みの一つという、自転車と歩行者の交通問題、宗教観、幼稚園児のすばらしいしつけ、生産性増進、日本人に対する心よい態度、さらには外から祖國を見直すよい機会など、教ええられる点多く充実した行事であった。